

おきぎんふるさと振興基金
第29回（2019年度）助成事業

「琉球銭づくり体験」

事業報告書

令和2年5月8日 沖縄県立博物館友の会

1. 事業実施に至る経緯

1980年に発足した沖縄県立博物館友の会は会員数364名から成る任意団体である。当会会員は沖縄県立博物館活動の理解を促すことを目的に博物館常設展示室での展示案内や関連講座の補助をはじめ、会員の知的好奇心の向上を図っていくために毎年、外部講師を招聘して研修会を実施するなどの活動を行ってきた。

会員の知的好奇心の向上と社会に向けて当会が行ってきた活動の一端を還元することができる新たな事業として「琉球銭づくり体験」を発案した。この体験から銭から見える琉球・沖縄の歴史について理解を深めていけることと、ものづくりを通してもの大切さだけでなく、琉球列島におけるお金の意味について深く考える機会を提供することができると考えた。

また、令和元年11月19日～令和2年1月19日まで開催された「琉球王国のグスク並びに関連遺産群」世界遺産登録20周年記念特別展『グスク・ぐすく・城』とコラボレーションする形で実施することで参加者が見込まれることから、グスクから出土する琉球銭である「大世通宝」「世高通宝」「金円世宝」の3種類の銭を対象にした銭づくり体験とすることにした。

2. 実施概要

① イベント名称

「グスクから出土する琉球銭をつくってみよう！体験教室」

② 実施日時

令和元年12月22日（日）

① 午前10時から午前11時30分 ② 午後2時から午後3時30分

令和2年1月13日（月）

① 午前10時から午前11時30分 ② 午後2時から午後3時30分

③ 実施場所

沖縄県立博物館・美術館 1階 博物館実習室

④ 定員

各回とも15名 定員総計60名（4回分）

⑤ 参加費

300円（資料代、保険料等）

⑥ 実施項目

- (1) 友の会会長あいさつ・注意事項（5分）
- (2) 琉球銭と沖縄のお金の歴史についての講義（20分）
- (3) 琉球銭づくり体験（60分）
- (4) まとめ（5分）



当会会長挨拶



参加者の方々



琉球銭と沖縄のお金の歴史についての講義



琉球銭づくり体験の様子



3. 体験内容

融点が 138℃である錫と鉛との合金インゴットを坩堝に入れて、IH ヒーターを使って溶かす。銭の沓が刻まれたシリコン鋳型を合わせた後、融解した先の金属を鋳型へ流し込む。5 分間放置して熱を冷ましてから、鋳型から枝銭を取り出す。「大世通宝」「世高通宝」「金円世宝」のうち 1 種類を選ぶ。枝銭から個別に銭を外して、サンドペーパーを使って銭の縁を磨いて形を丸く整える。艶を出すために表面全体をサンドペーパーで磨き、仕上げに研磨剤で丹念に拭く。

最後にプラスチック製コインケースに入れて完成。全工程時間は約 60 分。

製作工程



①鋳型にパウダーを塗布する。



②合金を高熱で融解する。



③鋳型を合体させて固定する。



④融解した合金を鋳型へ流し込む。



⑤5分放置した後、鋳型から取り出す。



⑥銭を枝から外して、全体を磨く。



⑦仕上げ後のレプリカ
(左：世高通宝レプリカ 右：同本物)



⑧プラケースに入れて、一式完成。

4. 実施にあたっての事前準備

琉球銭のシリコン鋳型についてはこれまでに製作されたことがなかったことから、和同開珎や富本銭のシリコン鋳型を製作販売している(株)スタジオ三十三へ新造で鋳型製作を依頼する。沖縄県立博物館・美術館の学芸員が監修する形で鋳型製作を進め、令和元年10月に「大世通宝」「世高通宝」「金円世宝」の3種の鋳型が完成する。同時並行で京都府立山城郷土資料館において「夏休み体験イベント 和同開珎づくり」の様子を視察し、運営の方法について情報収集を行った。また、大阪市の造幣局博物館にて銭づくり体験実施における注意点や使用する道具の詳細についてのレクチャーを受けた。これら他館における実施状況を踏まえて、募集方法や参加者定員、実施時間、プログラムの作成を行った。

また、令和元年11月8日には当会会員のボランティアスタッフによる琉球銭づくり体験のリハーサルも実施し、本番に向けての準備を十分に行った。



銭づくり用の鋳型



体験学習リハーサルの様子

5. 事業の実施効果

琉球銭づくり体験に参加した方々には下記項目でのアンケート用紙を配布し、その満足度と学習度を捕捉できるように努めた。また、琉球銭づくり体験のボランティアスタッフとして参加した当会会員にも当該事業の効果ならびに課題について明らかにする目的でアンケートを取った。

①参加者アンケート結果 (回答数23)

1) このイベントを何で知りましたか

チラシ・ポスター 6名 インターネット 3名 テレビやラジオ、新聞 8名
お友達から 3名 お父さん、またはお母さんから 0名 その他 2名

2) おかねのれきしについて分りましたか?

よく分った 15名 分った 5名 あまり分らなかった 1名
分らなかった 0名

3) おかねのつくり方について分りましたか?

よく分った 22名 少し分った 1名 あまり分らなかった・分らなかった 0名

4) おかねのれきし、おかねつくりについて興味がわきましたか?

とても興味がわいた 16名 まあまあ興味がわいた 5名
あまり興味がわかなかった・全く興味がない 0名

5) 今回、つくったおかねはどうしますか?

どこかにかざる 15名 どこかにしまっておく 1名
誰かにプレゼントする 4名 その他3名

6) おかねつくりのイベントは満足しましたか?

とても満足した 17名 どちらかという満足 5名
どちらかという不満・不満 0名

7) これからも今回のようなおかねつくりのイベントがあれば参加したいですか?

ぜひ参加したい 19名 参加したい 3名
あまり参加したくない・参加したくない 0名

8) その他感想等

- 親子で参加できて良かったです。
- 琉球銭で琉球王国へ思いを馳せることができました。
- 安い講習料で大変ありがたいです
- 伝統工芸品のイベントは色々ありますが「お金を作る」という体験はなかなかできないので、定番化すると大盛況になると思います
- 小2の子供も一緒にでき、友の会のみなさんが気を遣ってくれたので良かったです。
- つくるの（が）一瞬で、こんなに簡単にできるなんてびっくりです。
- ぜひ、定着のイベントにしてください。
- 通貨の歴史について詳しく知りたいと思いました。

②ボランティアスタッフアンケート結果（回答数9）

- 1) 銭づくり体験イベントを手伝って良かったですか。
とても良かった 5名 良かった 3名 普通 1名
あまり良くなかった・良くなかった 0名
- 2) 銭づくり体験イベントでは参加者とのコミュニケーションは取れましたか。
とてもよく取れた 2名 取れた 4名 普通 2名
あまり取れなかった・取れなかった 0名
- 3) 銭づくり体験を手伝って銭のつくり方について理解ができましたか。
よく分った 6名 分った 3名 あまり分からなかった・分らなかった 0名
- 4) 銭づくり体験前の事前リハーサルは実施してよかったですか。
とても良かった 3名 良かった 4名 普通 1名
あまり良くなかった・良くなかった 0名
- 5) 質問1)で「とても良かった」『良かった』と答えた方は具体的にどこが良かったですか。
 - 歴史の背景を理解するための流通としての銭の用途を学ぶチャンスに感謝
 - 琉球に貨幣があったこと。それはどのような形でどのような字が記載されていたのかを知る機会になった。
 - お金の造りの実施にあたってのその意義や目的、また歴史的な流れについて講師の説明や解説が有意義であった。
 - 参加者からの声（反応）がよく、博物館での通年の行事として行ってほしいなどの要望があった。

- ボランティアも新しい体験ができ、子供たちにも楽しく話をする事ができた。
 - 参加者がとても楽しそうに参加しており、次もあったら是非参加したいという方がかなりいた。
 - リハーサルで道具類の説明があり、火を使用するので不安があったが安全面が確認されたので安心した。やはりリハーサルは必要と実感した。
 - さほど難しくない工程で銭づくりが体験できるというのは新鮮な体験でした。
 - 参加してくださった方々の嬉々とした様子、真剣な様子から実施したかいがあったと思いました。
- 6) 質問1)で「良くなかった」『とても良くなかった』と答えた方は具体的にどこが良くなかったですか。
- なし
- 7) 今後のために何か反省点がありましたら、お書きください。
- 可能であればもう1グループあっても良かった。より多くの人に体験してもらえる。
 - 広報をもっと早目に始めたほうが良かったと思う。
 - もっと多くの方に銭を作ってもらえるようにしたい。
 - (定員を)18名まで増やしてもいいのでは。
 - もう少し時間的に余裕があった方がよい。
- 8) 銭づくり体験についての今後の提案などがありましたら、お書きください。
- 体験の後、座学とか常設展の解説とセットにする方法が良いと思う。
 - わかりやすい資料(子供向け)を配布したい。
 - 毎年の行事として行うことができれば。
 - 「大人(親)と子供」のセットがあっても良かったのではと思いました。子供には親も同席することからセットを考えました。
- 9) 他に何か伝えたいことがあれば、下にお書きください。
- 事前準備、スケジュール等、とても良かった。
 - 今回、キャンセル待ちも対応できるように待ってもらうことも必要ではなからうか。

6. 関連イベント

令和元年度 沖縄県立博物館友の会 学芸員講座

テーマ:「琉球王国の貨幣」

講師: 沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員 山本正昭

日時: 令和元年9月29日(日) 午前10時~12時

会場: 沖縄県立博物館・美術館講座室

参加者: 100名

目的：沖縄県立博物館友の会会員の知識向上のためと「琉球銭づくり体験」事業を遂行するにあたっての事前学習も兼ねて実施。会員外の一般の方々も多数、参加していた。

7. 分析

沖縄県内において銭づくり体験イベントはこれまで実施されていなかったことから、参加者の集まりや実施した反応など、その効果は未知数であった。また、実施・運営なども円滑に行うことができるかについても不透明な部分が多くあった。そのため、事前の情報収集ならびに実施に係る協議を綿密に行ったことにより、スムーズに実施することができると共に多くの参加者が満足するに至った。それは実施直後に取ったアンケート結果に表れてきている。

「おかねづくりのイベントは満足しましたか？」では22名中、「とても満足した」に17名が「満足した」に5名が記入し、やや不満以下は皆無であった。そして、「これからも今回のようなおかねづくりのイベントがあれば参加したいですか？」ではぜひ参加したいが19名、「参加したい」が3名と全てのアンケート回答者が次回も参加したいという結果が得られた。これらから今回の参加者はかなり満足感が得られたと共にイベントとしては好評であったとすることができる。また当事業における目的の中で当該イベントを通じて「琉球・沖縄の歴史について理解を深めていく」という点においては「おかねのれきしについて分りましたか？」では21名中20名が「よく分かった」もしくは「分った」に記入していたことや「おかねのれきし、おかねづくりについて興味がわきましたか？」では「とても興味がわいた」に16名、「まあまあ興味がわいた」5名記入していたことから、体験を踏まえた学習についても効果があることが明確に表れた。中でも「おかねのつくり方について分りましたか？」では「よく分かった」に22名中、21名が記入していたことから体験を通して理解することの重要性を改めて認識するに至った。

次に実施する側の効果はどのような状況であったのかについてもボランティアスタッフアンケートで明らかとなった。

「銭づくり体験を手伝って銭のつくり方について理解ができましたか。」では「よく分った」が6名、「分かった」が3名と参加者と同様の学習効果が出ている。また、『とても良かった』『良かった』と答えた方は具体的にどこが良かったですか。」では多くの意見が寄せられたことから、意欲的にイベントへ参加しようとする姿勢が窺える。更に「今後のために何か反省点がありましたら、お書きください。」の項目でも当イベントを改善していく意見が多く出されたことから、今回の事業への取り組みがボランティアスタッフ内でもかなり意欲的であったことも窺えた。

最後に当会は一般参加向けの体験型イベントについては従来まで実施されてこなかったことから、一般社会的なつながりは決して強いとは言えなかった。しかし、今回の体験型イベントを通して、社会のニーズがどこにあるのかについても確認することができ、当会

における社会的な意義についての議論ができる素地ができたと言える。それと同時に、各会員における当会に対する関わり方についても変容し始めているような状況がわずかながら見て取ることができた。

8. 総括

今回、おきぎんふるさと振興基金を活用して、新たなコンテンツとして体験学習を当会において初めて企画、実施した結果、「グスクから出土する琉球銭をつくってみよう！体験教室」の参加者に対してある程度の満足感を供給することができた。と同時に運営側となった当会会員も参加者と共に学ぶことの意義や新たな学びの発見、そしてこの体験教室を充実させていくといった、当会が実施可能な「学びの新発見」に至ったと言える。

この体験イベントの立ち上げ当初においては実施の際の役割分担、参加受付方法、実施後の学習効果など不安要素が多く会員から出され、議論を重ねて個別に検討していった。そして、事業実施当初は当該年度限りでのイベントとして割り切っていた会員が多く見られた。しかし、当イベント終了後は参加者から次回があればリピートしたいという声が多く出たことや、ボランティアスタッフとして参加した当会員からも今後において恒例イベントとしての実施が期待できるという声も多数、あったことから、令和元年度限定ではなく、次年度以降においても継続して実施していくことを当会において、新たに決定するに至った。この事業を通して各会員が当会との結びつきを新たに考える機会となったことと、今後の会のあり方について前向きに検討していく良い契機となったことから、同様な体験学習を新たに考えていく

その一方で課題点も挙げられた。まずは1回あたりの定員を15名に絞ったが、枠をもう少し広げても対応が可能であるという点である。今回は初めてのイベントであったことからかなり参加定員を限定することにしたが、次回以降は1回あたり20名前後でも対応ができるものと思われた。また、時間的な余裕があった方が良いという意見も見られた。とくに講義においては20分の中でかなり凝縮した内容でまとめたため、理解が追いついていない参加者も少ないが見られた。今後において、講義に対する時間を割く必要があると思われた。

当該イベントが今後に向けての将来性として、沖縄県立博物館・美術館ではゴールデンウィークや夏休みに向けてのイベントにおいて今回の体験学習が実施できる機会を見出せることができることや、沖縄県内の離島を対象にした移動展といった出張イベントにおいても活用することができる。また、沖縄県立博物館・美術館へ気軽に来館することができない遠隔地に向けて、当会独自の出張イベントとして企画することも可能である。

新たなコンテンツとして「グスクから出土する琉球銭をつくってみよう！体験教室」は当会の活動を活性化させる大きなヒントとなったと言え、また、琉球列島における金融史に対して興味を持つ方々が今後、多く現れてくるための重要なコンテンツとして当該事業は位置付けられてくると言える。

「学芸員講座」と「銭づくり体験教室」のチラシ

沖縄県立博物館・美術館特別展「グスク・ぐすく・城」関連催事



沖縄県立博物館友の会 学芸員講座

「琉球王国の貨幣」

琉球王国に独自の貨幣はあったのか。
いつ頃からどのような材質を使い、どのような種類の貨幣が作られたのか。また、貨幣を使い海外貿易との関係はどのようにして行われたのか。

琉球王国の貨幣の謎にせまります。

講師：山本 正昭氏（沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員）

日時：令和元年 9 月 29 日（日）

入場
無料

午前 10 時～12 時（開場 9 時半）

会場：沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室

定員：80 人（当日先着順、予約不要）

主催：沖縄県立博物館友の会

問合せ先：沖縄県立博物館友の会 ☎098-868-2722

おきんふるさと振興基金

琉球王国のグスク及び関連遺産群世界遺産登録 20 周年記念特別展
「グスク・ぐすく・城 - 動乱の時代に生み出された遺産 -」

2019 年 11 月 19 日（火）～ 2020 年 1 月 19 日（日）

沖縄県立博物館・美術館 特別展示室 1，特別展示室 2，企画展示室

令和元年度博物館特別展『グスク・ぐすく・城』関連企画

グスクから出土する琉球銭をつくってみよう！

体験教室



約600年ぶ

りに再現

左が今回つくる琉球銭
のレプリカで右が本物



首里城跡をはじめとする今帰仁グスク、浦添グスクなどから出土する琉球三世銭（大世通宝、世高通宝、金円世宝）についての謎に触れていくと共に、銭の製作工程を実際に体験！

開催日 令和元年12月22日（日）と令和2年1月13日（月）

時間 両日とも2回開催

1回目 10:00～11:30 対象は小学校高学年（10歳以上）から中学生 ※小学生は親同伴となります。

2回目 14:00～15:30 対象は高校生以上。

場所 沖縄県立博物館美術館 1階 博物館実習室

定員 各回とも15名（事前申し込み順。各回とも定員に達し次第受付終了します。）

参加費 300円 ※当日徴収します。

申込方法 事前に博物会友の会事務局にお電話またはご来館にてお申し込みください。

電話：098-868-2722 ※12月1日（月）から受付

主催：沖縄県立博物館友の会（この催しはおきぎんふるさと振興基金の助成を受けています。）